

7 松くい虫発生予察事業（第3報）

予算区分：受託
担当科名：森林育成科

研究期間：平成9年～
担当者名：江崎功二郎
小谷 二郎

．目的

マツノマダラカミキリの材内におけるマツノマダラカミキリの虫態別（幼虫、蛹、成虫）虫数を調査し、その発育状況（蛹化数）および蛹化の時期と環境条件調査との相関関係から、成虫の発生期を推定する。

．調査内容

調査地：押水町、富来町、珠洲市

割材調査：5月10日頃から5日置きに丸太1本を割材して、材中の幼虫、蛹、成虫の数を調べる。網室の丸太から成虫が出てきたら、その日以降調査を継続しない。

羽化脱出調査：網室の丸太から成虫が出てきてから、5日置きに18回調査を継続する。

．調査結果

押水町の成虫の発生最盛期は6月下旬で発生数は82頭、富来町では7月上旬で79頭、珠洲市では7月上旬で86頭であった。

．考察および今後の課題

例年、他と比べて珠洲市でマツノマダラカミキリの発生が遅れる傾向がある。今年度の発生は例年並であった。この調査の精度を高めるには発生個体数を多く保つ必要がある。